

勇気と自信を持って取り組もう

NRU 国労せんだい

NO. 2484
2007年2月17日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

地本組織対策会議開催

地方本部は1月27日、自治労会館において第2回組織対策会議を開催した。この集会は仙台地本で昨年新規加入した今野君を始め、東日本本部から木村忠義青年部長他2名の若手組合員が参加し、自身の国労加入の動機や決意を述べるとともに、各支部及び各分会の代表者とそれぞれの取り組みの報告に学び合い交流を図った。

集会は地本五十嵐執行委員の司会で開かれ、地本の大沼書記長より情勢報告等の挨拶を受けた後、東日本本部武田(幸)執行委員より今集会の意義と目的、工ア本部としての問題意識などの提起を行った。

問題提起

情勢報告

東日本本部木村青年部長(写真)からは「東日本本部青年部の現状と課題」と題して情勢報告をして頂いた。

【要旨】

一年ぶりの来仙であり、仙台の会議に参加すると組織拡大があるというジンクスブレッシングを感じている。貨物の高崎機

力強く問題提起する木村青年部長



関区で運転士をしており妻と3人の子供に囲まれ頑張っている。自分が国労加入してから間もなく十年になるが、全国の青年部員数は六十五名、東日本では三十一名。過日エリアの定期委員会を開催し「組織の強化・拡大」を最重要課題と位置付けた。しかし簡単に出来るものではなく危機感を持ちつつも焦ってみても仕方ない。「国労で安全・明るい職場」を合い言葉に笑顔で楽しい運動を心がけている。

何点が職場の実態を。四国の車掌の話。JR四国の社長宛に親切に対応してくれたと旅客から感謝の手紙が届いた。しかし組合休暇申請の用紙をもらいに行ったら彼に対する現場長の対応は「そんなものはない。これならあるけど」と

脱退届を出した。本来表彰されるべき者に対する態度か。また八王子機関区で脱退した仲間が「脱退して試験に合格したが、素直に喜べない。仲間を捨てる覚悟を決めないと合格させない。この会社に未来はあるのか」と言っていた。西日本青年部が取り組んだアンケートでは、一番の不満は低賃金、次は仕事がついつい三番目は休暇が取れないであった。労組の必要性は9割が感じており、国労は正しいことをやっており要求も取り上げられる一方、目に見える差別攻撃を受けるより、東労組・日貨労に居る方が利益になるとの意見もある。



会議の様子

親組合員の青年部に対する認識は「加入しても責任が持てない」「守れるだろうか」と後ろ向き意見。しかしそれでよいのか。世間では不一家・耐震偽装・いじめ・政治不信などモラル、常識が営利

今後の主な日程

- 二月
- 24日 婦人部委員会
- 25日 安全対策プロ(A.M) アスベスト学習会
- 三月
- 5日 春闘事務局会議
- 7日 青・婦・家中央行動
- 7日 貨物総行動
- 9日 国労東北総決起集会
- 10日 国労仙台総行動
- お詫びと訂正
- 国労仙台2482号で安全対策プロ3月3日とあるは2月25日A.Mに変更となっております。

第一主義にかき消されている。JR各社の安全に対する意識も同様であり、労使協調、自分達さえ良ければそれで良いという、ご都合主義の会社と組合が結託した結果でないか。今この時が拡大の時。西日本では福知山脱線事故以来拡大が続き、東日本では和解放が成り立「国労でも差別されない」と大胆に訴えることが出来る。決して勝利的和解ではないが、出発点であり、生かすも殺すも我々の行動一つである。貨物も和解の動きがあり正念場。拡大の特効薬はないが、加入・復帰者が共通して言うことは「国労は仲間を大切に。人間関係がよい・職場や仕事での悩み、不満、疑問の声を聞き、要求として作り上げる」など要求の多数派としての運動に共感・賛同している。具体的には「国労が職場で自信と確信を持ち、日常的に機関会議を開催し、職場で何が起きているのか把握し、不満を組織して要求を作



森岡前青年部長も駆けつけてくれた

り上げ 役員だけでなく、みんなで作る運動を目指し 学習会を開催し知識を身につけ調査活動により要求を裏付け 小さな事でも大いに宣伝していく」ということが非常に大切である。 後ろ向きの考えは止めにして、仕事を通じ、同じ労働者として汗して働き、共に悩み、考え、行動し、たまには酒を飲みながら思いを共有させてもらいたい。労働者の居るところに要求があり、要求のあるところに闘いがあ。労働組合とは何なのかをしっかりと考え「安心して働き続けられる職場作り」に向けて共に奮闘しよう。

仙台電車区分会で組織拡大

太田敏明さん（四十八才）

東労組から2月7日付

既に「組織部速報」として国労せんだい2483号「速報版」で紹介しているが、宮城県支部・仙台電車区分会において組織拡大がなされた。

本人から加入の動機と分会から歓迎の言葉が寄せられた。

苦楽を共に 信頼出来る仲間と

5年前、信号冒進をしてしまい約六ヶ月の日勤教育を受けました。会社・組合から自分自身が自分でなくなるまで変わらないう乗務させられないと、人間性まで否定され、分会から全然変化なしと判断された後、検修職場に変えられました。東労組では問題があっても個人の問題、個人が悪いで片付けられてきたが、国労はみんなの問題として取り上げみんなが何とかしようと労組を問わずに職場の仲間の力になっできました。まさに労働組合として当たり前姿勢を貫いてい

国労加入ありがとう

ると思います。信頼出来る国労の仲間と、苦楽を共にして働き続けたいという気持ちがあると思います。今回の加入は

国労加入された太田さんには心からありがとうと言いたいです。今回の加入は

宮城県支部がチラシ配布

国労宮城県支部は1月27日、長町駅・南仙台駅・名取駅の周辺住宅街にワンマン運転反対のチラシ合計三千枚の配布を行った。

チラシの内容は、ワンマン化により車掌が不在となることにより乗降客の十分な安全確認が出来なくなる。

乗降客の十分な安全確認が出来なくなる。



電車の遅れや誤乗車の対応、車内トラブルや急病人の対応が出来なくなるなどのサービスの低下などを指摘してあり、JR東日本仙台支社に「つた安全に対する不安を解消するために車掌を乗務させるべき」として、宮城県支部は国労と会社との交渉と共に地域の声を会社へ届ける取り組みを今後も強

うも強い。

今後大きな社会問題化するものが懸念され、見切り発車への批判が出ることは避けられ

私達国労組合員にとつてこれだけの自信と確信を呼び覚ましてくれたが、計り知れないものがあると思っております。会社側からのあらゆる差別に、それこそ歯を食いしばって20年間耐えに耐えてきました。決して国労ゆえの独りよがりではないと思いつつも毎日毎日悔しさでいっぱいでした。勿論、今も悔しい思いをしています。とはい

え国労組合員としてのプライドは常に高く掲げてきたつもりです。

国鉄闘争連帯カンパ箱

平和フォーラム・教組らが

国労本部ならびに国鉄闘争支援中央共闘会議は重要な局面を迎えた闘争団の闘いを財政面から支えるために、D E基金（傷病災害救援基金）と子弟の就学援助金とあわせて闘争団の上京行動費等を助成する「カンパ箱」の取組みを、各地区の組合・団体等に要請しているところであるが、福島県平フォーラムでは1月26日付けで、各単産・単組と各地方労にカンパの要請文書を発すると共に、同フォーラムの機関誌にも呼びかけ文書を掲載して頂いている。

また福島県教職員労組では1月に総員1人150円のデー

りですが、20年ともなると色あせるものがあります。

しかし、今回の太田さんの加入により久方ぶりに国労に酔いしれる」といつと大袈裟かもいれませんが、そんな思いを味わっています。国労加入を大歓迎します。そして、なんといいても「ありがとう」の一言に尽きます。

国労仙台電車区分会
執行委員長 我妻美津男



お知らせ

国労会館建設資金返済業務の取り扱い変更について

国労会館建設資金返済業務は1999年度未償還期限以降、(財)国労会館仙台事業部で取り扱いを行って来たところですが、このたび返済業務が一定の整理を見たこと等から、(財)国労会館仙台事業部で取り扱ってきた業務の残りについて、国労仙台地方本部で引き受けることになりました。

つきましては、今後の国労会館建設資金返済請求については下記に請求をしてください。

記

住所 〒984-0015 仙台市若林区新寺

名称 国鉄労働組合

担当係 仙台地方本部

連絡先 TEL 022-293-7460 FAX 022-299-7435

請求方法

所定の請求書に必要事項を記載の上「国労会館建設資金受領之證」とあわせて提出してください。

